

分布図情報



「官許飛騨国全図」

松村梅窩 著] 松村輿四右衛門 校] 大沢玄三 鐫]

江戸時代(作製年不明) 59 × 80 cm 木版多色刷

(収蔵資料展示「古地図の世界 - 国絵図 - 」於 岐阜県博物館 より)

全体が山を表す緑色で覆われ、国境には高い山々が連なり、乗鞍岳・穂高岳など一つ一つに名前が記されています。山国である飛騨国らしさが表れている絵図です。

川の流域のわずかな平地に村々が立地し、それらを繋ぐ街道が赤く表示されています。江戸時代の人々の生活とその苦勞がうかがえます。

旅人への観光案内のためと思われるが、下呂湯・平湯などの温泉、高さと幅が記された滝、仏刹名所、舟渡、籠渡などの情報も盛り込まれています。



地図講演会

「江戸幕府の国絵図事業と国絵図の編集」

地図フォーラム

「知ってびっくり岐阜弁ワールド」

岐阜県図書館では、地図について関心と理解を深めていただくことを目的として、地図フォーラムと地図講演会を開催しています。

【地図講演会】

7月13日(日)に、東亜大学教授の川村博忠先生を講師にお招きし、「江戸幕府の国絵図事業と国絵図の編集」と題し開催しました。

川村先生は江戸時代の国絵図に関する研究では、日本の第一人者であり、近年の国絵図への関心の高まりの一助を担っておられます。

今回の講演で先生は、江戸幕府にとって、全国を治めるために、基本図としての「国絵図」と土地台帳としての「郷帳」をセットにして作成させていることが重要であり、中でも正保年間に全国一斉に行った事業が、縮尺や地図記号の統一がなされ注目されることなどを、スライドを交えわかりやすくお話されました。

【地図フォーラム】

11月30日に岐阜県方言研究会会長の加藤 毅さんと、岐阜女子大学教授の神田卓朗さんを講師にお招きして、開催しました。

加藤さんは、長年かけて岐阜県内を調べ歩いた成果を方言地図にまとめていらっしゃいます。「とうもろこし」という言葉一つでも県内には15種類の言い方があること、その分布の様子、他県とのつながりなど、言葉が地図になるおもしろさをお話下さいました。

神田さんは、岐阜県のアクセントを3つに分類し、それぞれの違いを具体例を挙げながらお話下さいました。また、美濃地方に残る、方言による伝統芸能「にわか」の楽しさを、映像を交えてご紹介下さいました。

いずれも多数の方々のご参加があり、発表や講演を熱心に聞いていただき、また質疑応答なども活発におこなわれました。

来年度も地図講演会を実施する予定です。詳細につきましては、インターネットホームページなどでお知らせいたしますので、皆様のご参加をお待ちしております。



川村博忠先生（地図講演会）



神田卓朗先生（地図フォーラム）



加藤毅先生（地図フォーラム）

「地図づくりって楽しいね」

わくわく地図教室

7月24日と25日の両日「わくわく地図」教室を開催しました。講師には、地図研究家の渡辺一夫先生をお招きし、「みんなの楽しい地図が書ける」「きみがいちばん、地図作品づくり」というテーマでご指導いただきました。

方角や地図記号など地図づくりのための基本や、地図を使っての地名しりとり、日本の島の名前あてゲームなど、地図の楽しみ方を教えていただきました。また、一人一人がかいてきた「家から学校までの地図」のよさを紹介し、もっとよくするためのポイントを丁寧に説明してくださいました。



わくわく地図教室の様子

昨年度の児童生徒地図作品展優秀作品を鑑賞した後、地図ソフトを使って、地図づくりの実習を行いました。渡辺先生からいただいたアドバイスを思い出しながら、もう一度、自分の家から学校までの地図をかいてみました。「パソコンでつくる地図も楽しいね。」子どもたちは目を輝かせて取り組みました。



地図ソフトを使った児童作品

皆さんからは、「地図で遊んだり記号をおぼえたりパソコンで地図をつくったりして、とても楽しかった。」「地図はおもしろい。横から見たり上下逆さにしてみると、違う国のように見えた。」「地図をかいて探検するのがおもしろそう。やってみたい。」「地図を自分でつくる力がつきました。地図作品づくりをがんばります。」などの感想をいただきました。

「地球環境に興味をもてました」

リモートセンシング教室

中学生と高校生を対象に、リモートセンシングについての理解を深める「中高生のためのリモートセンシング教室」を、1月25日(日)に開催いたしました。

はじめに、千葉大学環境リモートセンシング研究センターの建石隆太郎助教授から、リモートセンシングの基礎について講義をしていただきました。その中で、リモートセンシングは、人工衛星などから地球の電磁波を観測し、地球の気候や植生などのいろいろな状態を判読・解析する技術であることや、近年環境破壊が問題となっている熱帯雨林地域のデータや画像により、その実態をわかりやすくお話いただきました。

続いて、県民ふれあい会館の展望室から画像と実際の風景を見比べた後、参加者が実際にパソコンを使って、ランドサットデータを用いた土地利用分類図の作成などの体験実習を行いました。

リモートセンシングという言葉をはじめて聞いた参加者も多かったようでしたが、この学習教室を通してリモートセンシングについて学ぶことができ、新たに地球環境に興味・関心を持った生徒もいました。



リモートセンシング教室の様子



ふれあい会館14階展望室での様子

第9回児童生徒地図作品展

作品づくりを通して、地図に興味や関心を持ち、生活の中で使いこなす力を高めることを願って始まった児童生徒地図作品展は、9回目を迎えました。今年、県内の小・中・高等学校から316点の応募がありました。魅力的な作品の中から15点の入賞作品、46点の入選作品が決定しました。

子どもたちの地図作品の魅力

充実した地域探検

自分の町のことをもっと知りたい、身近な自然・環境が荒れているというのは、本当だろうか、大好きな路面電車が廃線にならないように、そのよさを地図にしたい、中山道を昔の人のように歩いてみたい、などそれぞれのテーマにそって、よく観察したり、インタビューをしたりして、情報を集めています。

岐阜県知事賞



「レトロな時代へタイムスリップ in Gifu City」
岐阜大学教育学部附属小学校 5年 内海 大成

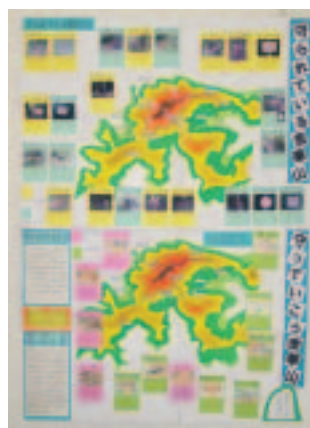
岐阜県教育長賞



「自てん車こいで三わたんけん」
岐阜市立三輪南小学校 2年 小西 はなの



「私の町岐南町平島発見マップ」
岐南町立東小学校小学校 3年 大門 明日香



「守られている金華山
守っていきこう金華山」
山県市立富岡小学校4年
村瀬 和正

創意あふれる地図表現

自分の調べたことを、いかにわかりやすく人に伝えられるか。これは、どんな表現活動でも苦勞することです。平面地図に紙粘土の立体を入れたり、昔らしさを表すために色づかいを考えたり、感想を俳句のリズムで表現したり、4枚の地図を回転させて示したり、それぞれの個性があふれるユニークな作品がたくさんあります。

国土交通省国土地理院長賞



「タイムスリップ! 私たちの小学校が
できたころを見てみよう」
岐阜市立長良東小学校3年 林真菜美

財団法人日本地図センター理事長賞



「ぼくが歩いた中山道」
岐阜市立本荘小学校3年
近藤 幹大

深まる地域への愛着、願い

夏休みにじっくりと地域を探検し、自分のテーマと向き合い、地図づくりを行っていくうちに、地域への思いがふくらんでいきます。「私の町には、素敵なところがたくさんあったんだなあ。ますます好きになった。」「昔の人たちの力強さにはかなわないなあ。もっとがんばらなくては。」「この素晴らしい自然を壊したくない。みんなで力を合わせて大切にしたい。そのための対策を自分なりに考えてみた。」など。地図づくりを通して、地域を見る目が変わっていきます。そして、子どもたちの生活の中に、存在感のある地域が根付き、そこに主体的に関わっていくという意志が育っていくのです。その過程が、子どもたちの作品から感じられます。これらが、児童生徒地図作品展の作品の魅力です。

日本地理学会会長賞



「高山自然絵地図」
高山市立山王小学校 3年 翠 野歩

61点の入賞・入選作品は、11月1日から12月27日まで世界分布図センターで展示されました。期間中は多くの人々が鑑賞され、それぞれの努力や工夫にうなずく姿がよくみられました。

また、11月21日には、NHKのニュース番組で

岐阜県地理学会会長賞



「島地区のほうれん草と枝豆地図」
岐阜市立島小学校 4年 市橋 理恵子

岐阜県図書館長賞

- 「環境と人にやさしい路面電車・情報MAP」
岐阜大学教育学部附属小学校 4年 加藤 祐奈
- 「ぼくの町河渡古いものマップ」
岐阜市立合渡小学校 3年 鷲見 泰弘
- 「かくえきていしゃとうきょうゆきちず」
岐阜大学教育学部附属小学校 3年 山田 一貴

奨励賞

- 「世界地図を見よう
エネルギーと環境問題の視点から」
岐阜市立長森南中学校 3年
小林優希・小野木朋美
- 「SOUND MAP」
岐阜市立精華中学校 2年 野村 香純
- 「鷲山本通り歩道車いすMAP」
岐阜市鷲山小学校 5年 堀 大貴
- 「私の家族が13年前に引っこして来た時と
今をくらべてみたよ」
岐阜市立長良東小学校 3年 景山 知依

入賞者へのインタビューや展示作品が紹介されました。

きっと来年度も、見る人の心に作者の思いが伝わるような、素晴らしい地図が多数応募されることでしょう。当センターとしても、地図教室や資料提供などを通して、地図づくりの応援をしたいと思っています。

ただ今、入賞・入選作品61点の写真を収めた作品集を配布しています。ご希望の方は、世界分布図センターまでご連絡下さい。また、ホームページでは、入賞した15点の作品の写真を紹介しています。どうぞ、ご覧下さい。

「<http://www.library.pref.gifu.jp/map/index.html>」

地図の目的と表現

平成15年6月4日(水)～7月30日(水) 於 岐阜県図書館

地図は、その製作目的により、大きく一般図と主題図の2種類に区分されます。

一般図は、地形や水系、集落、交通路、農業的土地利用など、地表の形態とそこに分布する事物をどれかに重点をおくことなく、縮尺に応じて描いた地図のことです。国土地理院発行の地形図(縮尺1/1万、1/2.5万、1/5万)や地勢図(縮尺1/20万)、地方図(縮尺1/50万)などが一般図として代表的な地図です。なお、各都道府県や市町村が国土地理院発行の一般図などを利用して作製している各管内図も一般図です。

主題図は、特定の主題(目的やテーマ)に重点をおいて描いた地図のことです。描き方は、一般図の上に特定の主題について描くものと、はじめからその主題のために描くものがあります。多種

多様な地表面の事物・事象から1～2の主題を設定して描くわけですから、非常に多くの主題図が存在することになります。

また、主題図は表現方法も多彩で、色分けや段彩、統計や写真を取り入れたものなど様々な表現方法が使用されます。これらの主題図は、作製者の意図や主張する内容、理解のしやすさなどが考慮されて描かれています。

今回の展示は、当センターが所蔵する地図・分布図などの中から様々な主題(目的やテーマ)と表現方法により作製された地図及び当工房で作製した地図を展示し、地図の様々な目的とその表現方法の違いを楽しんでいただけることを目標に企画しました。

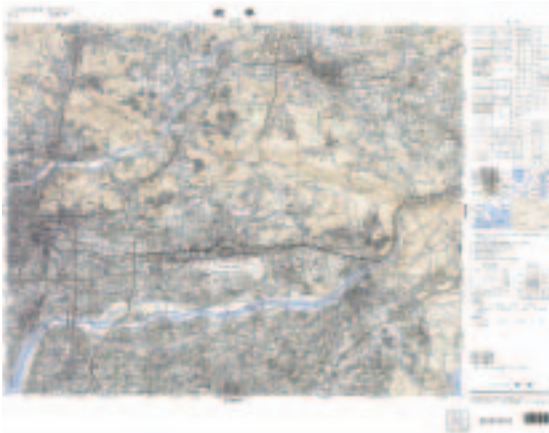


図 1:50,000地形図「岐阜」

図 は、一般図の代表的な一つである国土地理院発行の1/5万地形図です。図 は図 を基にして、図 の上に土地利用をその種類によって色分けして作製した、同じく国土地理院発行の土地利用図

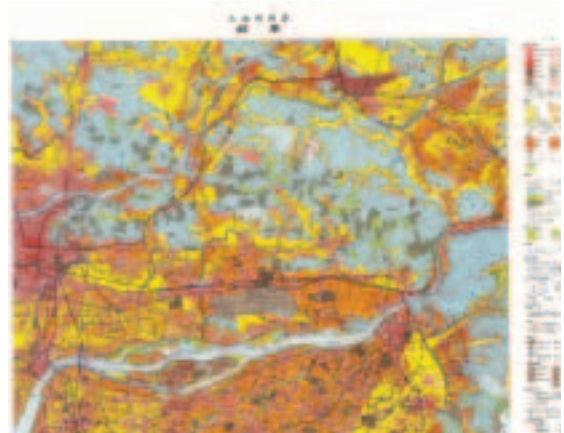


図 1:50,000土地利用図「岐阜」

=主題図です。

この種の問題図は、現在の地表の姿と比較しやすいメリットがありますが、少し煩雑になって読みにくい場合があります。



図 岐阜県方言地図「支度」

図、図 は主題図で、はじめからその主題のために描かれたものです。一般図の上に描いた主題図と違い、主題(テーマ)を特化させた地図です。主題の他の事項は最大限省略してあります。



図 地球環境画像「気温7月」

このため、主題を捉えやすいというメリットはありますが、省略された情報が必要になった場合、他の地図も用いなければならない不便が生じる場合があります。

明治維新後日本は、近代国家への道を歩みはじめ、戦争・景気の変動など様々な社会情勢の変化を経験しながら、世界有数の経済大国に成長しました。この過程の中で、景観的に大きく変化したものの一つに都市があります。

今回の所蔵資料展示は、平成13年度、14年度に開催した「地図で見る都市の変遷」に続くものです。県内の都市として、大垣市、可児市、瑞浪市を、県外の都市として神戸市及び東京の多摩地域を取り上げました。

地形図を時系列的に展示し、社会環境などの変化に伴い農地や住宅地などの土地利用が変化して

きた各都市の変遷の様子を理解していただけるように配慮しました。また、県内の都市については新旧の空中写真（米軍が終戦直後に撮影したものと近年国土地理院が撮影したもの）も展示し、地形図と併せて楽しんでいただけるよう工夫しました。

展示した地形図は、県外の都市については市域が分断されないよう編集されたものを、県内の大垣市及び瑞浪市については国土地理院の許可を得て、岐阜県情報工房で複製・編集したものを使用しました。

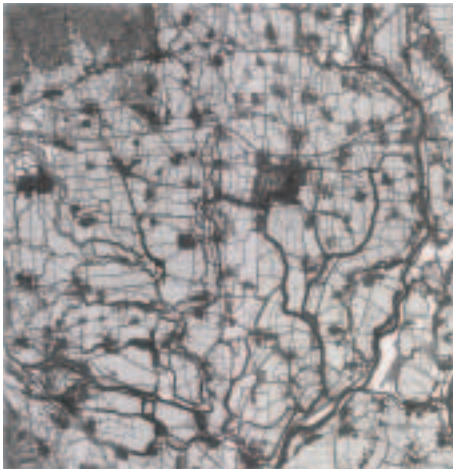


図 「明治26～27(1893～94)年頃の大垣市」

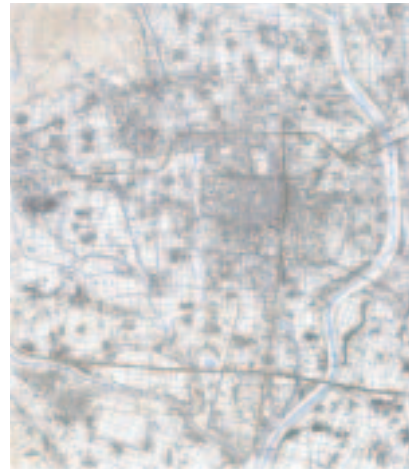


図 「平成10～14(1998～2002)年頃の大垣市」



写真 米軍撮影空中写真
昭和24(1949)年撮影(R1132-26)

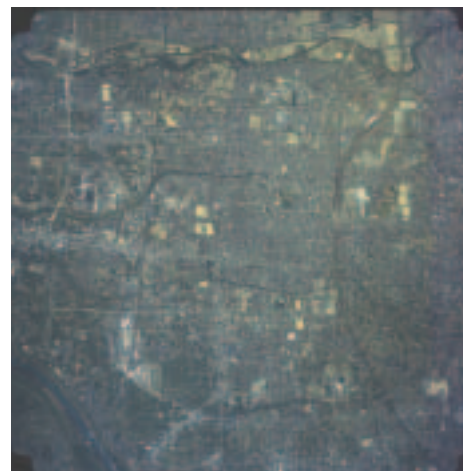


写真 国土地理院撮影空中写真
平成8(1996)年(CCB96-1X C-06-17)

図、はそれぞれ、陸地測量部（国土地理院の前身）が発行した1/2万地形図、国土地理院発行の1/2.5万地形図を当館で編集したものです。時を経るにつれて、西濃地方の中心都市である大垣市の拡大と市街地周辺地域の変遷、交通網や水路の整備や輪中地域の変容などが分かります。

写真、からは、第2次世界大戦直後と現代の大垣市をより視覚的に捉えることができます。このように地形図と空中写真を組み合わせることで展示したことにより、大垣市他の都市の変遷を楽しんでいただけたと思います。

「自然堤防と後背湿地」(岐阜市島地区)

地名と土地利用から知る地域の特徴とその変遷(その1)

岐阜県の地勢を的確に表す「飛山濃水」という言葉があります。この言葉からわかるように美濃平野は古くから良くも悪しくも「水」に関わる環境が卓越しています。今回はその典型例である「輪中」地域以外の例を紹介します。

場所は長良川扇状地の扇端の北側で大小いくつかの川が合流する地域にあたります。過去に上流で分流した長良古川が再び合流し、長良古川の少し上流側ではほぼ北西方向から流下する板屋川と北東方向から流れ下る伊自良川とが合流し、さらに、伊自良川の少し上流で鳥羽川が合流する地域です。

この地域では近島・旦島・北島・西島・西中島・東島・島田のように「島」地名が集中し、また、尻毛、江口、萱場、菅生、池上という地名がそれを取り巻くように分布しています。

ちなみに、「島」という地名は自然堤防を示します。さらに、地名用語語源辞典¹⁾によれば「尻毛」の「尻=しつ」とは「湿って粘りのある様子」で、「毛」とは「場所」を示す接尾語とあることから河川流域の低湿地であることが判明します。同様に「江口」の「江」も川、海、湖、堀などの陸に入り込んでいる水域をさすことが多く、湿地など「水気のある所」も含むとされています。また、萱場や菅生も低湿地で、水がよく湛く場所を示しています。たとえば、萱場のカヤとはチガヤ、ススキ、スゲ

などの総称ですが、このうち、スゲは湿地、水辺に生えるカヤツリグサ科の多年草をさすといわれます。また、菅生はス(州、砂)、ゴウ(川の意)を示す地名、あるいは、スゲ(菅)の生えた所という意味があり、どちらの意味からも河川沿いの低湿地または氾濫原であることは間違いのないといえます。

以上のようにこの地域は自然堤防を表す「島」地名と低湿地(後背湿地)を示す地名が対となって集まってみられるのが特徴です。

自然堤防は普通、細長く連続する帯状または円弧状の形態を示しますが、この場合は島という地名で表されるように塊状となっています。原因はこの地域が、一つの大きな河川の蛇行によってできた自然堤防と周辺の後背湿地帯からなるのとは異なり、大小複数の川の合流地帯にあたるためと考えられます。ある時点で洪水で形成された帯状の自然堤防が、その後、合流する別の川の洪水流によって切られたり、削られたりして形成されたのでしょう。それはその後の増水時に一帯に広がる水面上に島のように浮かんでいたと考えられます。

周囲を取り巻く堤防が築かれるようになってからは、そのような光景はよほどの洪水時以外は見られなくなりました。

(その(2)に続く)

1)地名用語語源辞典 平成5(1993)年 楠原佑介 満手理太郎 編 東京堂出版

2.5万分の1地形図「北方」
(大正12年国土地理院発行60%に縮小)

2.5万分の1地形図「北方」
(昭和47年国土地理院発行60%に縮小)

「世界分布図センター」には、13万点を超える分布図・地図、地図関係図書があります。

また、「情報工房」ではコンピュータ及びGISソフトを使ってオリジナル地図や分布図を作成し、印刷することができます。

調査・研究や学習、国内外の旅行の準備等お気軽にご利用ください。

岐阜県図書館
世界分布図センター・情報工房
〒500-8368 岐阜市宇佐4-2-1
TEL (058) 275-5111
FAX (058) 275-5115
URL <http://library.pref.gifu.jp/map>
E-mail mapstaff@library.pref.gifu.jp